

農を強くし、農を守る農業農村整備事業の推進

農を強くする（地域で暮らし稼げる農業の実現）

1 農業全体をけん引する基盤整備の推進

現状・課題

- 農家の高齢化・減少に伴い、生産効率の悪い未整備の農地から耕地面積が減少
- 基盤整備をしていないと担い手が借受けてくれない
- 基盤整備の要望は耕作者からが多く、地権者から自己負担に対する理解が得にくい

取組方針

- 次の世代を担う若者や女性の新規就農者に加え、規模拡大志向のある農業者、企業参入等の意欲ある担い手を確保し、地域計画に基づき農地を集積する取組を加速化するために、**さらなる基盤整備の推進**が必要。

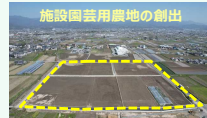
今後の取組

農業全体を力強くけん引する基盤整備を推進し、優良農地を確保することが前提条件

平地 【まとまった優良農地の確保】

- 企業参入や規模拡大に必要な大規模な農地を創出

（国営事業を契機とした取組）



（県営事業を契機とした取組）



R5～R9：ほ場整備の実施面積（累計：303.4ha）

- 【国営】R7予算要望額：事業費 20億円以上

中山間 【迅速かつきめ細かな優良農地の確保】

- 中山間地域の条件の悪い農地をほ場整備で優良農地へ

（産地の維持・発展を支援する取組）



（ブランド化を支援する取組）



- 県営農地耕作条件改善事業（**地元負担なし**）の活用と拡充

R6年度から面積要件を大幅に緩和

⇒ 生産性の高い優良農地を**迅速に整備**

R5～R9：基盤整備の実施地区（累計：40 地区）

- 「**地域計画**」に基づき担い手へ農地集積

人口減少下における若者や女性の
新規就農者等の担い手の確保・育成

【担い手への農地集積の加速化】

・新規就農者等の担い手を中心となって、地域の農業を担う農業構造を確立するため、基盤整備を推進し、優良農地を確保

提言 I

1 農業全体を力強くけん引するための基盤整備予算の確保

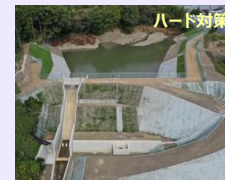
- 人口減少下の中で、若者や女性の新規就農者等の担い手を確保し、「地域で暮らし稼げる農業」を実現するには、**農業全体をけん引する基盤整備をさらに推進し、優良農地を確保することが前提条件**

農を守る（安心して暮らせる農村環境の実現）

2 農村地域の防災・減災対策の強化

現状・課題

- 防災重点農業用ため池(215池)**（R6.3時点）
【ハード対策】
 - 地震・豪雨対策として、215池の内、52池の対策工完了（24%）
※令和6年1月の能登半島地震（M7.6）では、石川県の防災重点農業用ため池1,114池の2割で損傷し、決壊の恐れや営農に支障をきたす
 - M8～9の南海トラフ地震対策の早期完了**【ソフト対策】
 - 地震・豪雨時に安全かつ迅速な状況の把握**が必要



ハード対策

今後の取組

ため池対策工の早期完了と監視の強化

- 【ハード対策】
 - ため池対策工の早期完了**【ソフト対策】
 - 新たな取組として、全ての重点農業用ため池に監視装置を設置**



監視装置

3 気候変動に伴う豪雨・渇水対策の実施

現状・課題

- 近年、集中豪雨は増加し、降雨日数は減少傾向
【豪雨対策】
 - 集中豪雨により、県内の園芸産地で浸水被害が発生
⇒ **豪雨対策として、排水能力の向上**が必要【渇水対策】
 - 降雨日数の減少による渇水から、農作物の被害が発生
⇒ **渇水対策として、農業用水の安定確保**が必要



ハウスの浸水被害



渇水によるため池の水位低下

今後の取組

気候変動に伴う集中豪雨や渇水への対応

- 【豪雨対策】
 - 排水機場の機能強化（**排水ポンプの増設など、排水能力の向上**）【渇水対策】
 - 農業用水の安定確保（**ため池の嵩上げや地下水などにより農業用水を確保**）



排水機場の整備

提言 II

2 農村地域の防災・減災対策の強化と 3 気候変動に伴う豪雨・渇水対策の予算の確保

- 南海トラフ地震や豪雨対策として、**ため池対策工の早期完了と、地震・豪雨時の監視を強化**
- 近年の気候変動対策として、**排水機場の機能強化や、農業用水の安定確保**